

神戸運輸監理部では、平成30年8月7日（火）に、海事産業の各分野の現業部門で働く6業種7名の女性による座談会を開催しました。

現在、我が国においては、少子高齢化が進行し、労働力人口が減少していく中、「男性の仕事」のイメージが強い海事産業においては、著しい労働者不足となっており、その打開策の一つとして女性の入職・定着を促進する取り組みが喫緊の課題となっています。

課題解決に向けては、業界や企業が抱えるそれぞれの課題を把握・分析し、海事産業全体で情報を共有すると共に、地域に向けて情報発信していくことが重要です。

そうしたことから、今回、地域の海事産業で働く女性による座談会を開催し、そこで働く女性のやり甲斐や目標、また、抱える悩みや課題について、職種を越えて幅広く意見交換を行い、海事産業の魅力や働きがい、課題等について語り合ってもらいました。

進行役も神戸運輸監理部の女性係長（渋谷一穂総務係長）が務め、お茶にケーキ、クッキーと「女子会」のような雰囲気でごやかに進められました。

<参加者>

- 船員：加藤汽船株式会社 吉田 ルリ子
早駒運輸株式会社 神戸シーバス 丹野 美由紀
- 倉庫：三井倉庫株式会社 関西支社 神戸支店 中原 茉紀
- 港運：商船港運株式会社 神戸事業部 舟坂 海佑
- 造船：川崎重工業株式会社 船舶海洋カンパニー 神戸造船工場 土屋 望
- 船用：金澤鐵工株式会社 製造部 澤江 恵
- 水先人：内海水先区水先人会 川島 慧子
- 司会：神戸運輸監理部 総務企画部 渋谷一穂

最初に参加者お一人ずつから仕事の内容や入職の動機について、自己紹介を兼ねてお話いただきました。

吉田

神戸空港と関西国際空港を結ぶ高速船の船長をしています。船舶の運航以外にも、接客や誘導、案内や荷物の受け渡しの作業なども行っています。入職のきっかけは、もともと海が好きで、船の仕事が面白そうだったので選びました。



丹野

神戸港を周遊する観光クルーズ船の船長をしています。

操船以外にも団体の案内アナウンスやカフェでの接客なども行っています。入職のきっかけは、技術職になりたくて海員学校に進み、そこで船の勉強を始めたのがきっかけです。



中原

ポートアイランドにある営業倉庫で、在庫管理や出庫作業などの倉庫作業に関する現場指示と事務作業を行っています。入職のきっかけは、大学で「タイ語」を学んだので、就職するなら東南アジアに関係する仕事がいいなと思い、ここには海外研修制度もあり、語学が活用できるということもあって選びました。



舟坂

コンテナターミナルで、荷役作業に関するオペレーション業務を行っています。

主な業務は、ターミナルに搬入されるコンテナをどの位置に蔵置するかを計画する業務を行っています。入職のきっかけは、高校、大学と神戸の学校に通っていたので、神戸で働けたらいいなと思っていました。就職活動を行う中で、人々の生活を支えている物流の世界に関わってみたいと思って選びました。



土屋

神戸造船工場で造っている商船の艀装工事における工事検討や計画、工事の進捗管理などを担当しています。

入職のきっかけは、大学の造船学科で学び、ものづくりに携わりたいと思っていましたが、色んな選択の中から受注生産でひとつのものを皆で作り上げる造船が、私のものづくりの理想に一番近いと思い、入社を決めました。



澤江

始動用エアータンクの溶接の作業を行っています。

最初は接客の仕事に着いていましたが、その後、友達の誘いもあって職業訓練校に入り、そこで初めて溶接をやってみて、面白いと感じたのが溶接を始めたきっかけです。

溶接という仕事には、道具を使い慣れて色んな物がどんどん作れるようになっていく楽しさがあります。





川島

内海水先区で水先案内業務に携わっています。海域は瀬戸内海全域です。父親も船に乗っていて、そんな父親の影響もあって商船大学に進みました。

在学中に水先制度が変わり、船長経験が無くても水先人になれるようになったので、操船に興味があったので水先人を目指しました。

次に、自分たちが感じる仕事の魅力とかやり甲斐、働いていて良かったと思えることや会社のいいところについてお話ししていただきました。

吉田

船は男性の仕事というイメージが強いけれど、会社は男女の区別なく、能力で見てくださいるところがとても働きやすいと感じています。

また、女性の作業効率を上げるための取り組みが、結果的には男性も含めた仕事全体の作業効率の改善に繋がっていると思います。

中原

顧客からの急な作業オーダーに現場のベテラン作業員と業務を調整することで対応できたり、問題解決が上手くいったときにはやり甲斐を感じます。

川島

乗り込んだ船の船長から、はじめは女性の水先人で印象が悪かっても最後には“ありがとう”“またね”と言ってもらえると嬉しいです

澤江

先輩が技術を惜しみなく教えてくれるので、やればやるほど技術が身につきます。仕事を任せてもらえるようになると嬉しいし、自分の作った物が製品になったときにはやり甲斐を感じます。



土屋

多くの職人さんと検討を重ねながら困難な作業を経て船ができあがり、発注者に引き渡されたときに達成感を感じます

舟坂

搬入されるコンテナの蔵置プランニングで、作業がスムーズに進んで褒められたと

きにやり甲斐を感じます。

丹野

お客さんから「ありがとう」と言われるととても嬉しいし、やり甲斐を感じます。安全が当たり前だと思われる仕事なので、事故なく無事に一日が過ごせたら「よかった」と感じます。

次に、女性が仕事をするうえで困難と感じていることや、これから多くの女性に入職してもらうために必要だと思う取り組みについてお話ししていただきました。

澤江

力が必要な作業でも道具を使うなど、ちょっとした工夫で女性でももっと楽に仕事ができると思います。

吉田

女子寮がない海上技術学校が多く、船員を目指す女性にとっては窓口が狭くなっているため、まずは船員教育の入口から女性が学びやすい環境に改善していく必要があると思います。

そうした環境で船員を目指した女性は、男性よりもやる気があると思うので、女性だからという理由で断る会社は損をしていると思います。



川島

水先人の仕事は女性だからというハンディはないけれど、仕事自体が 24 時間勤務であったり、遠方での仕事であったりするので、子育てが重なると大変だと思います。女性も含めて水先人の育成を図るには、育児制度の充実が必要だと思います。

丹野

船員法そのものが男性中心の考えの中で作られていて、船長に滞船義務が課せられるなど、船長に求められる職務が多いので、子育てと両立して働きにくい仕組みとなっていると思います。子育て期間中は、子育てと両立しながら働ける陸上勤務など、子育て期間をバックアップする仕組み作りが必要だと思います。

また、結婚や出産で離職した船員を求人している会社の情報を一元的に発信することも重要だと思います。

土屋

就職活動中に大学の教員に「女性なのに造船に行くの？」と驚かれたことがあります。

した。学校で就職指導に携わる教員に海事産業はイメージが悪いので、この人たちの認識を変える必要があると思います。

舟坂

最近になって女性の仮眠室ができたところもありますが、場所によっては女性用のトイレがなくて、女性を受け入れにくい職場もあるので、まずは施設整備が必要だと思います。

中原

まだまだ男性中心のイメージですが、女性の管理職が増えると職場の意識も変わってくると思います。

このように、海事産業は女性にとっても働きがいのある産業であること、まだまだ男社会ではあるけれども女性が働く中で徐々に環境が変わってきていること、さらに女性が増える中で環境は大きく変わっていくことがわかりました。

最後は、参加者から海事産業への入職を目指す女性に向けた熱いメッセージを語ってもらいました。

中原

海事産業は男性社会のイメージではあるけれど、女性でも活躍できる仕事はたくさんあって、女性だからこそその気配りで上手く進められる仕事もたくさんあります。

丹野

船の業界は男性中心のイメージだけど、ここを変えていかなければいけないと思うので、意欲を持った女性にどんどん入ってきてもらいたいです。

吉田

船の仕事は男女共存して働ける仕事です。

川島

夜の海は星が綺麗で、朝焼けの海はとても素敵です。外国船の食事はとても美味しくて、本場のインドカレーも食べられる、そんな楽しみが水先人の仕事にはたくさんあります。



澤江

物作りが好きな人なら長く続けられる仕事です。

また、幅広い年齢層の人と一緒に働けるのもこの業界の魅力です。

土屋

女性が働きやすい制度が作られていて、頑張れば男女関係なく認められる職場です。

舟坂

港湾には日常では見られない景色が見られる楽しさがあります。

それぞれ職種は異なるものの、海事に関わるという共通点でいろいろな意見や考え方、悩みについて本音でお話しすることができました。

今後もこのような機会を設け、女性の声を幅広く発信することにより、海事産業が女性が輝ける産業になるよう、取り組んでいきたいと思えます。

これからも皆さんの活躍を期待しています。

